

# 鷹取山自然観察会会報

2018.3.11 NO.19

## 鷹取山蝶類について —2017年調査—

2017年4月から11月までの8か月間に行った蝶類調査の結果を報告します。2014年6月に会員により月1度の蝶類調査を始めてから4年目になります。蝶は種ごとに違った食草を持ち、気候など環境の違いによってもすみ分けをしています。このため、地域の環境を評価するために蝶はよい指標となっています。

2014年の調査結果は会報7号に、2015年の調査結果は会報11号に、2016年の調査結果は会報15号に掲載されています。

三浦半島は三方を海に囲まれ黒潮の影響を受けるため暖地性の蝶が多く分布しています。横須賀市自然・人文博物館によれば三浦半島には84種が記録されています。このうち、普通にみられる健在種は34種、近年減少または絶滅に追いやられている減少種は27種、温暖化などで増加傾向にある増加種は7種、単発的に記録される偶産種は8種、外来種は8種となっています。(横須賀市博物館研究報告(自然科学)第60号より)

2017年の蝶類調査は、2016年に引き続き環境省「モニタリングサイト1000里地調査」に登録して行いました。調査結果は国の方にも報告することになります。

### 1. 調査方法

調査は環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」に沿って、4月から毎月2回行いました。調査ルートは植物相調査のコースで行い、植生の違う6区間に分け調査しました(会報12号植物相調査ルート(図1と表1)を参照)。調査頻度は月2度第1及び第3金曜日に行い、調査ルートを歩きながら、目視で判別できる種は記録し、シジミチョウ科、シロチョウ科、タテハチョウ科など同定が難しい種については捕虫網で捕獲し、図鑑により確認し記録しました。

### 2. 調査結果

今回は、15回のチョウ類調査を行いました。調査日によっては気象条件などにより出現する数に違いがありました。2017年は45種が記録できました。



調査区間の結果から見てみると、A区間は鷹取山公園内で草地の他、クヌギ、コナラの落葉樹とシイなど照葉樹もある区間です。草地にはキタキチョウ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモンなどが見られました。また、樹林内ではコムスジ、アカボシゴマダラ、モンキアゲハ、ヒメウラナミジャノメなどが観察されました。B区間は住宅地及び児童公園があり、アゲハの仲間やツマグロヒョウモンなどが見られました。C区間はシイ、カシなどの常緑樹の木々が多く、ここではヒカゲチョウの仲間やジャノメチョウの仲間が観察されました。D区間はコナラ、オオシマザクラなどの落葉樹が多い場所であり、アゲハの仲間、コムスジ、サトキマダラヒカゲ、ダイミョウセセリなどが見られました。

E区間は杉林の林縁でありヒメウラナミジャノメなどジャノメチョウの仲間、ヒカゲチョウなどが多く見られました。F区間は畑地もある場所でモンシロチョウ、ヤマトシジミなどが観察できました。

今回新たに見つかった種はコチャバナセセリ、ヒメアカタテハの2種で、45種が記録でき

ました。また、今回は見られなかったものは、  
ミズイロオナガシジミ、イチモンジチョウ、ヒ

オドシチョウ、アサギマダラの4種でした。こ  
のため、4年間の合計では49種となります。

鷹取山の年別記録数

( 調査頻度 2014~2015年：月1回 2016~2017年：月2回 )

	科・亜科	種名	2014年	2015年	2016年	2017年
1	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	▼	○	◎	●
2		オナガアゲハ	△	△	×	△
3		カラスアゲハ	△	▼	▼	●
4		キアゲハ	△	×	△	△
5		クロアゲハ	▼	△	●	▼
6		ジャコウアゲハ	▼	○	○	●
7		ナガサキアゲハ	△	×	△	▼
8		ナミアゲハ	▼	▼	○	○
9		モンキアゲハ	▼	○	○	●
10	シジミチョウ科	アカシジミ	△	×	△	△
11		ウラギンシジミ	△	▼	○	○
12		ウラナミアカシジミ	×	△	×	△
13		オオミドリシジミ	×	△	△	△
14		ツバメシジミ	△	○	○	○
15		ベニシジミ	△	○	◎	◎
16		ミズイロオナガシジミ	△	×	×	×
17		ムラサキシジミ	×	△	▼	▼
18		ヤマトシジミ	◎	◎	●	●
19		ルリシジミ	○	▼	○	○
20	ウラナミシジミ	×	×	◎	◎	
21	ジャノメチョウ亜科	コジャノメ	△	◎	○	○
22		サトキマダラヒカゲ	▼	○	◎	◎
23		ジャノメチョウ	×	△	▼	▼
24		ヒカゲチョウ	▼	▼	○	○
25		ヒメウラナミジャノメ	○	◎	●	●
26		ヒメジャノメ	△	▼	◎	◎
27		クロコノマチョウ	×	×	△	△
28	シロチョウ科	キタキチョウ	○	○	◎	◎
29		スジグロシロチョウ	△	△	▼	▼
30		モンキチョウ	△	△	○	○
31		モンシロチョウ	▼	▼	●	●
32		ツマキチョウ	×	×	△	△
33	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	△	○	○	○
34		ダイミョウセセリ	▼	▼	○	○
35		チャバネセセリ	×	△	○	▼
36		キマダラセセリ	×	×	▼	▼
37		コチャバネセセリ	×	×	×	△
38	タテハチョウ亜科	アカタテハ	△	△	▼	○
39		アカボシゴマダラ	▼	△	○	◎
40		イチモンジチョウ	×	△	△	×
41		コムスジ	▼	▼	○	◎
42		ツマグロヒョウモン	○	○	●	●
43		ヒオドシチョウ	×	△	×	×
44		ルリタテハ	×	△	▼	▼
45		ゴマダラチョウ	×	×	△	△
46		キタテハ	×	×	○	▼
47		ヒメアカタテハ	×	×	×	△
48	テングチョウ亜科	テングチョウ	△	×	△	▼
49	マダラチョウ亜科	アサギマダラ	△	×	×	×

凡例 ×：なし △：1~3頭 ▼：4~10頭 ○：11~30頭 ◎：31~50頭 ●：51頭以上

なお、ジャノメチョウ亜科7種の三浦半島における2017年の生息状況について、三浦半島昆虫研究会による調査が行われました。鷹取山自然観察会の調査データも提供しました。結果は三浦半島昆虫研究会会報「かまくらちょう No. 93」に報告されていますが、三浦半島全体

では、「最も多かったのはヒメウラナミジャノメで、ヒカゲチョウ、ヒメジャノメ、コジャノメ、サトキマダラヒカゲ、クロコノマチョウ、ジャノメチョウの順」とのことでした。鷹取山にはジャノメチョウ亜科の食草であるススキや

アズマネザサなども多く、生息に適した環境になっているようです。

### 3. その他

蝶類調査では、絶滅していく種やこの地域で新たに見つかる種を観察することもあるかもしれません。前述の博物館報告書による減少種のうち、鷹取山自然観察会で4年間に記録されたものは、キアゲハ、ミズイロオナガシジミ、オオミドリシジミ、イチモンジチョウ、ジャノメチョウ、コチャバネセセリ、キマダラセセリ、

ヒオドシチョウの8種になります。調査することは楽しみでもあり、調査を継続していくことによって、鷹取山周辺の分布の状況がはっきりしてくると思います。

2017年調査に参加した人（鷹取山自然観察会）  
本多久男、中村紀雄、高橋和子、原秀子、島村健二、金子龍次、板垣加代子、郡司久、小池順子、竹之下香苗、北村悦子、三科清高（順不同、敬称略）



## 植樹活動とコナラのドングリを育てる

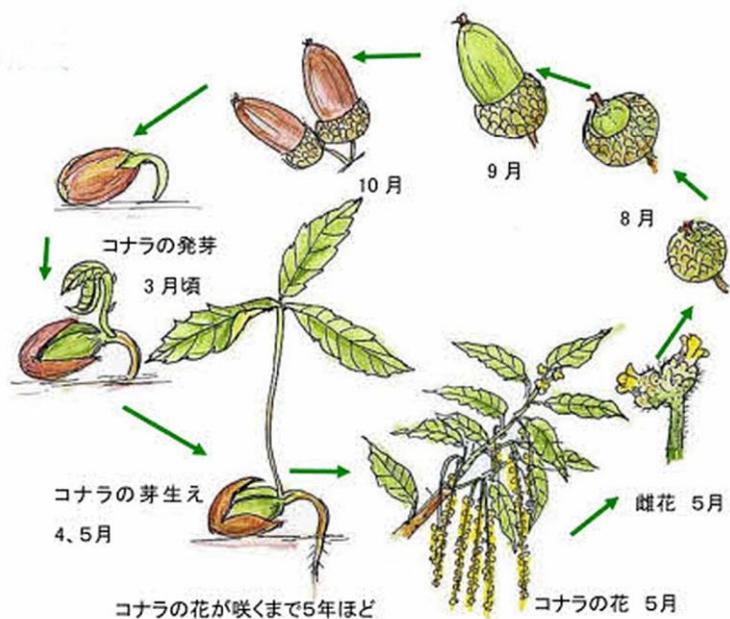
鷹取山自然観察会では、横須賀市と相談しながら鷹取山公園などに蝶や野鳥の好む樹木の植栽を検討しています。エゴノキ、ガマズミ、ネムノキなど中低木のほか、昆虫の好きなコナラ、クヌギの落葉樹も植栽していければよいと考えています。ここでは、比較的費用をかけず、自生の実生から育てる観点からコナラのドングリの育て方を掲載しました。

コナラのドングリはガイドブック秋冬編18ページに掲載していますが、図のように育っていきます。

秋に拾ったドングリは翌年の春には芽が出てきます。順調に育てば5年程で花を咲かせます。

### コナラのドングリの育て方

① 秋に落ちたドングリのうちチョコキリやシギゾウムシの卵を産み付けたものは育ちま



せん。そこで軽いもの、穴が空いているものを選別します。

また、バケツなどの水に入れて、浮かんできたものは芽が出ない、沈んでいるものは発芽しやすいドングリです。

②. 植え付けは10月から12月。プランターに植える場合は、「赤玉土7：腐葉土3」の割合で作った土を使うと良い。ドングリが埋まる程度の深さに「ドングリを横に」して埋めて置き、土をかぶせます。そして乾燥させないように定期的に水をやれば翌年の3月頃発芽します。プランターには少し多めに植え、そこから間引いて強いものだけを育てるようにします。

③. ドングリから育てて、葉っぱが2~4枚になる4~5月頃に植替えの適期です。ドングリをつけたままの状態を取り出して、ポット苗に植替えてください。

置き場所は一年を通じて風通しが良く、日当たりの良い場所で育てるのが基本です。夏場の暑い日は、強い西日を受けて、半日陰の場所を選んで置くようにします。



水やりは夏場に1日2回必要な場合も



あります。冬は、吸水力が落ちるので、2、3日に一回程度でよい。

肥料は新芽が開いて固まる5月頃と10月頃には、油かす、化成肥料などを施します。

④. 発芽してから2年か3年で40cmくらいに育ってから山に植樹します。

その他の実生

山では、ガマズミ、エゴノキ、ムラサキシキブなども実をつけていて、これらも実生として育ちます。

1. 種まきの適期は10月~11月です。
  2. 秋に熟した果実から果肉を水で十分に洗い落して種を取りだしてください。
  3. 翌春に発芽して、花が咲くのに3~4年かかります。
- 皆さん、是非、実生から育てて山に植樹しましょう。

## 湘鷹みんなの部屋のカルチャー・カフェについて

湘南鷹取にある湘鷹みんなの部屋は、2016年に誰もが利用できる世代を超えた交流の場としてオープンしたコミュニティカフェです。レンタルボックスやレンタルルームもあり、レンタルボックスには地域の方々の様々な手作り作品が展示、販売されていて、レンタルルームはカルチャー教室として、語学や書道、手芸、囲碁、将棋などの教室の開催に提供されます。鷹取山自然観察会では昨年10月からガイドブックの販売もさせていただいています。

湘鷹みんなの部屋では定期的なイベントを企画していて、今回「鷹取山の自然」の演題で講演の依頼を受け、2018年1月29日に実施しました。夜7時からということで、参加者は12人程度でした。

講演内容は

1. 鷹取山の地層

2. 鷹取山周辺の緑地と植生
3. 四季の花
4. 鷹取山の鳥類
5. 増加する外来生物と園芸種



で行いました。

今回、湘鷹みんなの部屋からの要請で鷹取山の自然について説明の機会を頂きました。多くの方に鷹

取山の自然を知っていただく機会であり、今後もできる範囲で協力したいと感じました。

## モニタリングサイト1000里地調査の継続について

鷹取山自然観察会では2015年からモニタリングサイト1000里地調査（モニ1000里地調査）に参加していますが、第4期（2018～2022年度）5か年間の応募と継続の手続きがあったので、当会では引き続き調査を継続することにしました。

モニ1000里地調査は、日本全国の様々な生態系の動態を長期にわたりモニタリングすることによりその変化をいち早く捉え、生態系及び生物多様性の保全施策につなげることを目的とした国（環境省）の事業です。

モニ1000里地調査のうち里地分野については、日本自然保護協会が事務局をつとめ、現在全国191箇所ですべて市民の協力によるボランティア調査が行われています（図1）。

調査項目は植物相、鳥類、カヤネズミ、カエル類、蝶類、ホタル類、植生図の7つです。

鷹取山自然観察会では、前回と同様植物相と蝶類調査の2つの項目を実施します。

なお、鳥類調査は、当会独自の方法で調査を継続して行います。

## 再観察したい花

ヒメウスは、やや湿った日当たりのあるところや畑の縁に多く咲き、キンポウゲ科ヒメウス属あるいはオダマキ属の小さな花をつける春早い植物です。オダマキに花の構造が似ていて僅かながら距があります。オダマキのように細長く伸びず、花卉に見える萼片の間から丸い距を覗かせています。萼片の中の黄色の筒状のものが花で中に多くのおしべと数個のめしべがあります。

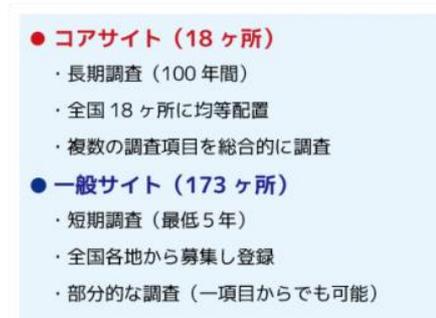
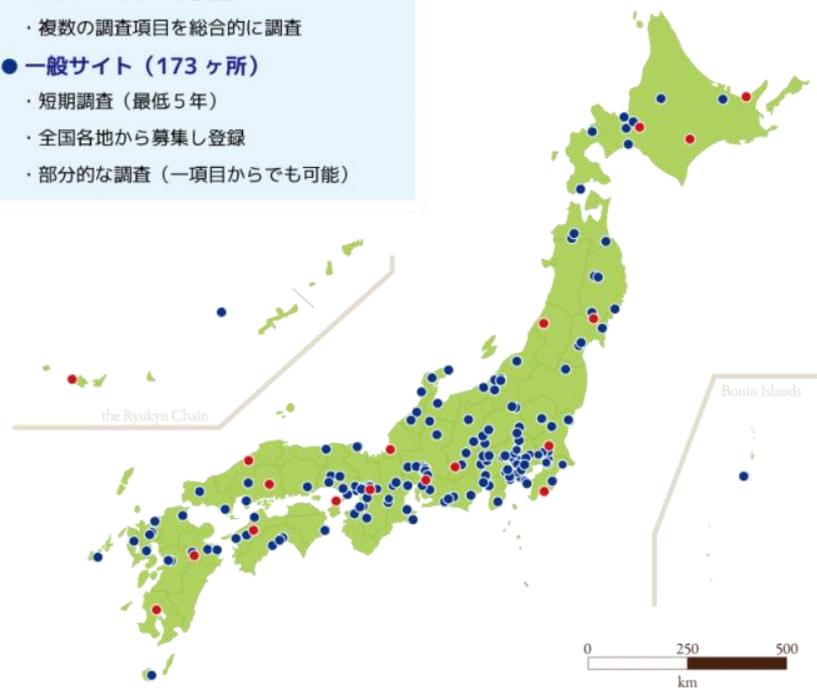


図1 全国調査地点



各調査地では市民自身が調査結果を現場の保全作業に活かしたり、調査報告会を開催したりするなどの活動も広がっているようです。

鷹取山自然観察会では、調査結果を関係機関に報告するなどしていますが、今後貴重なデータをどのように生かしていくか検討が必要です。会員の皆さんからアイデアを期待しています。

下部の葉は長い葉柄がありますが、上部に行くにつれ葉柄は短くなっています。葉の形は円形で紫色を帯びることもあります。特徴があり見分けはつきやすい花です。

しかし、中には一見タチイヌノフグリかなと思えるような葉をつけている個体があります。周りにある他のヒメウスより草丈が高く、上部に葉がたくさんつき、よく見ると下部の葉はヒメウスの特徴を示しています。

これはファイトプラズマに寄生されたヒメウスで、

かっこいい名前のファイトプラズマはバクテリアのグループの一種で非常に微細なゲノムを持ち、イネやトウモロコシなど 1000 種以上の植物につくといわれています。もちろん食料になる植物の場合は、駆除対策をしなければなりません。

ファイトプラズマに罹患したヒメウズは葉だけが目立ち、生殖能力が阻害されるので花は咲きません。また、葉の裏に白い点々がある葉がたまに見られ

ます。これはサビ菌の一種でウメやモモの白さび病を起こすといわれています。サビ菌に感染すると生殖能力を失い花をつけなくなってしまいます。葉も茎の上部につくので、サビ菌にとって孢子散布に有利になります。

鷹取山に見られるヒメウズも、バクテリアや菌に寄生されながらも地下茎を増やし毎年多くの花を見ることができます。



ファイトプラズマによる葉



小さな距がある



花は黄色の筒状

マメグンバイナズナは、鷹取山公園の草地に多く見られます。草丈はせいぜい 20 cmほどで、花はアブラナ科の特徴の4弁花で白い花がたくさんつきます。実はハート型で軍配に似ていることから見分けが付きやすいです。

深浦の工業団地を散策していると見たことのない植物がありました。葉はインチンナズナにとってもよく似ていて、草丈は 40 cmほどありました。インチン

ナズナと同様に白い花弁は目立たず、しかもインチンナズナのような実の形ではなく植物体は横に這っていてもいません。

何だろうと思いついた特徴のある葉と実の部分を探集、博物館で見ていただいたところ、キレハマメグンバイナズナとわかりました。もっとよく見ようと一週間後行ってみたらきれいに除草されていました。いわゆる道端の雑草の宿命です。

	マメグンバイナズナ	ヒメグンバイナズナ	ダイコクマメグンバイナズナ	キレハマメグンバイナズナ
根生葉	羽状に深裂してロゼット形成。花期には根生葉は見られない	2回羽状に深裂	花期には根生葉は見られない	花期には根生葉は見られない
茎	直立しよく分岐し、毛がまばらにある	直立し上部は多く分岐、腺毛がある	直立しよく分岐し、無毛	直立しよく分岐し、毛がある
葉	粗く不規則な鋸歯があり長楕円形、茎の上部の葉は小さく鋸歯が少ない	粗く不規則な鋸歯があり長楕円形、茎の上部の葉は小さく鋸歯が少ない	基部につく葉は披針形で明瞭な鋸歯がある。上部の葉は小さく鋸歯が不明瞭	葉は羽状に細裂し、葉縁や脈上に細毛がある
花	白色の4弁花。萼片4個の背にわずかに毛がある	花弁は萼片より小さくしばしば退化する	花弁はなく若い花序は紫色を帯びる	目立たず花弁がないものもある
種子	両面に1本の浅い曲がった溝があり、翼がある	翼がない	狭卵型で、翼がない	背面に翼がある

[参考 「日本帰化植物写真図鑑」 「日本帰化植物写真図鑑 第2巻」]

鷹取川沿いに歩いていると草丈 50 cmほどあり枝分かれの多い、マメグンバイナズナに似た植物がありました。マメグンバイナズナにしては立派すぎるし、環境の違いで見た感じが違うのかなとも思っていました。ダイコクマメグンバイナズナというのがあるのを知りました。ダイコクは大黒埠頭から名付けられたそうです。

ありふれたマメグンバイナズナですが、もともと



2枚の苞葉の中心に腺体がある

ナツトウダイは春に咲きます。茎は 40 cmほどに直立、葉は輪生し枝分かれ互生して傘を広げたような感じになります。茎頂の杯状花序の基部に長い三角形の苞葉と三日月型の腺体が目立ちます。

トウダイグサ科のニシキソウ属・トウダイグサ属は、杯状花序という変わった花序をつけ雌雄異花で、雌花は雌しべ1個、雄花は雄花が1個だけでできています。雌花1個と複数の雄しべがカップ状の苞葉の中にあり、出口を塞ぐように三日月形の腺体を取り巻いています。花序は雌性先熟で、雄性期には腺体が成長し赤味が強くなります。

トウダイグサ科の特徴として、子房が3つの心皮がより集まって3室になっていて、柱頭もこれに対応

## 鷹取山のゼフィルス

ゼフィルス（ギリシャ語で西風の神）と呼ばれる樹上性のシジミチョウの仲間は、卵で越冬し、年1回梅雨のころに華麗な姿を見ることができます。鷹取山では、ミズイロオナガシジミ、オオミドリシジミ、アカシジミ、ウラナミアカシジミの4種が記録され

外来種であり、さらにこの仲間の外来種が見られるようになったのに気付かなかったのでしょうか。調べているうちにヒメグンバイナズナというのがあるのわかりました。マメグンバイナズナとの誤同定が多いとされています。

大雑把な観察ではなく、もっと念入りに植物体を見ることを心掛けたいと思っています。



横から見ると杯状が分りやすい

して3つに分かれます。単子葉植物では3数性は共通する特徴ですが、双子葉植物では多くありません。

伊豆半島、房総半島で見られるイズナツトウダイがあります。房総半島ではナツトウダイとイズナツトウダイが同じくらいの比率で存在しているそうです。ナツトウダイの変種といわれています。

ナツトウダイの茎頂の苞葉は長い三角形なのに対し、イズナツトウダイの苞葉は細長い形であるのが相違点だそうです。

今までそうだと思っていた植物が、違う特徴を持っていることがあります。植物観察を続けているとパッと見て決めつけてしまいがちですが、再度確認も必要でしょう。（小池 順子）

ています。生息地となる雑木林を大切にしたいと思います。

（三科 清高）



ウラナミアカシジミ 2017.6.2

鷹取山自然観察会（ホームページを見て下さい）

HP：鷹取山自然観察会

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>

## 平成 30 年度自然観察会の予定

鷹取山自然観察会は次の日程（原則第二日曜日）で観察会を開催しています。季節によって鷹取山の様々な生き物の生活を観察していきたいと思えます。会員以外の方も参加自由です。初めての方もお気軽にご参加ください。

日 程	観察会のテーマ	集合場所
3月11日(日)	早春の野草を探してみよう	追浜駅
4月8日(日)	春に咲く花を見つけよう	京急田浦駅
5月13日(日)	オトシブミを見つけよう	追浜駅
6月10日(日)	初夏に咲く花を観察しよう	神武寺駅
7月8日(日)	蝶とその食草を探してみよう	追浜駅
8月12日(日)	セミの観察と夏の花を観察してみよう	京急田浦駅
9月9日(日)	鷹取山の秋の七草は何でしょう	追浜駅
10月14日(日)	コオロギなど鳴く虫を探してみよう	追浜駅
11月11日(日)	野菊の違いを観察しよう	神武寺駅
12月9日(日)	落ち葉の種類を見分けよう	追浜駅
1月13日(日)	冬を越す樹木を観察しよう	追浜駅
2月10日(日)	冬鳥の観察と冬芽を観察してみよう	京急田浦駅

◆集合場所：集合場所駅改札出口9時20分集合 30分出発

観察会は12時まで 現地解散

追浜駅集合の場合は10時15分頃西友湘南鷹取店前を通過します。小雨程度は決行。大雨の場合は翌週の日曜日に延期します。(延期の場合は朝7時までにHPに掲載。)

◆参加費：会員100円、非会員200円（保険料・資料代）

◆定員：15人程度、先着順

◆申込方法：下記のアドレス宛てメール又は電話で申し込み下さい。

◆持ち物：メモ帳、鉛筆、飲み物、あれば虫眼鏡、双眼鏡など

◆主催：鷹取山自然観察会

《問い合わせ・申込み先》

メールアドレス [takatori\\_0721@nifty.com](mailto:takatori_0721@nifty.com)

